国際ロータリー第2700地区　　第2023回例会　　発行2026年3月14日

週報 Weekly Report No.26

行橋みやこロータリークラブ
Rotary

ロータリー特別月間
3月
水と衛生月間

ガバナー月信　年間例会　会員用リンク

2025～2026 年度 国際ロータリーテーマ よいことのために手を取りあおう	少しの成長から始まります 1.01 で成長、0.99 で衰退 国際ロータリー第 2700 地区ガバナー 濱野良彦	ベクトルを合わせ最善を尽くそう 行橋みやこロータリークラブ会長 藤原妃呂

本日のプログラム	出席報告	3月のお誕生日
本日のロータリーソング 『我らの生業』 3/14本日のプログラム 青少年育成委員会 （移動例会【野球大会】）	3月4日 会員数 52 欠席者 24 出席率 53.8%	長尾浩央（11 日）辻隆廣（11 日）木村謙一（13 日） 上野優二（16 日）田中聰樹（18 日）岡﨑慎一（25 日） 秋山高広（28 日） 石塚千菜美さま　金澤真弓さま　村上沙央理さま 寺﨑景子さま

3月 18 日会員増強出席奨励委員会（夜間例会オープンロータリー）／3月 25 日休会／4月 1 日観桜例会（創立 42 周年）／4月 8 日広報公共イメージ／4月 22 日Ｒ情報会員研修委員会（内部卓話）／4月 29 日（祝日）休会／5月 6 日（祝日）休会／5月 13 日社会奉仕委員会（外部卓話、献血）／5月 20 日長期計画委員会（内部卓話）

会長の時間

皆さんこんにちは。先週の IM ではグランプリを取る予定で頑張りましたが参加賞でしたね。
でも盛り上がった IM で楽しかったです。

また今週末から3日間で台北朝陽ロータリークラブの 33 周年記念式典に行ってきます。そこで台湾ロータリアンの方々と十分なコミュニケーションが取れるよう、勉強してみました。

まず台湾の歴史については 50 年間日本の統治下時代があり、戦後に中華民国政府に移転したこと。今も日本の整備した鉄道、水道、教育制度が台湾の基盤になっていること。そのため高齢の方には日本語を話せる人が多いということでした。

文化的には、家族を大切にし、儒教の影響が強く、親孝行を大事にします。お正月は日本以上に家族の行事が中心とのこと。宗教が身近で、道教・仏教、民間新教が混ざり、街角のいたる所にお寺があり、お線香の香りは日常だそうです。

日本との共通点は、礼儀を重んじる、列に並ぶ、時間を守る、などの心理感情があることです。

また東日本大震災では、台湾から世界最大規模の義援金が届けられました。これは困った時は助け合う台湾の温かい国民性の象徴のようです。

それから日本と台湾の日常には、いくつかの違いもあります。まず、台湾人は感情表現が豊かで率直です。日本は空気を読む文化がありますが、台湾は言葉でちゃんと伝える文化のようです。

食事はシェアする文化で、大皿料理をみんなで分け合うのが基本です。これは心を分け合い、絆を大切にする事の象徴だとの事です。

日本は車社会ですが、台湾はバイク社会で、街中にバイクがたくさんあります。

また台湾では「ありがとう」をよく言いますが、家族にはあまり言いません。行動で示す文化が根付いているからです。

占いが人気で、お寺でおみくじを引くのは日常です。そして夜がとても元気な国なので夜市が栄えているとのことでした。

気を付けなければいけない事は、お土産品にはタブーがある事でした。置き時計は「看取る」や「葬儀儀式」を意味する言葉と発音が似ているため、縁起が悪

● 創　　立 … 1984 年 4 月 3 日
● 例 会 日 … 水曜日（12:30～13:30）
● 例 会 場 … みやこホテル　行橋市宮市町 9-18　☎0930-23-1800
● 事 務 局 … 行橋商工会議所別館 1 階　行橋市中央 1-9-50　☎0930-25-0655
FAX: 0930-25-5700　Email: info@ym-rotary.club　URL: https://ym-rotary.club

● 会　　長 …… 藤原妃呂
● 副 会 長 …… 山田千恵
● 幹　　事 …… 原田和博
● 会報雑誌委員長 …… 二十二 豊

い。ハンカチも別れや涙を連想させるため良くありません。傘は「散」と発音が似ており、関係が散るという意味を連想させるためタブーです。白一式の包装は台湾では弔事の色なのでダメです。お祝いの色は赤との事。

喜ばれるものは、日本らしい上質の伝統工芸品で、縁起のいい赤や金を使ったものでした。

そこで今回の寄贈品は、京都の老舗漆器店から取り寄せた、カラフルな独楽文様の二段重にしました。ろくろ挽きで漆塗りです。独楽文様は、回り続けるということから繁栄と継続の象徴、円形は円満を意味します。またその二段重を乗せるお盆には、桜の花の彫り物がある漆塗り盆にしました。その盆下に当クラブの名前を入れました。この 2 つをお土産品として持っていきます。

飛行機なので台湾からの寄贈品が軽かったらいいなと切に思います。

幹　事　報　告

●3 月の会費に苅田クラブ 50 周年記念の登録料 1 万 3000 円が含まれます。

●3 月 11 日の例会は、3 月 14 日土曜日の周防灘カップ野球大会の例会に変更いたします。朝 8 時に中山グランドへお集まりください。

●今期藤原年度の例会場、都ホテルは、本日で最終日となる予定です。理事会で決定すれば 3 月 18 日は、夜間例会になります。

●今週の土曜日は地区大会です。場所はアクロス福岡地下 2 階のイベントホール、10 時開始で受付は 9 時からです。ロータリーバッジの着用をお願いいたします。

●本日例会終了後に事務局にて定例理事会を行いますので、役員理事の方はご出席ください。

●行橋クラブから、IM のお礼状が届いておりますので、皆様にお知らせいたします。

米山奨学委員会 奨学金授与

ナサ君：ロータリー米山の奨学生になって、1 年になりました。この 1 年は本当に早かったです。私の専門や研究について、たくさんのことを勉強しました。私の学問の目標に、少しずつ近づいていると思います。皆様やロータリーの方々から、社会のために何かをすることは大切なことだと学んでいます。皆様の優しさや、一生懸命な気持ちからも学んでいます。ありがとうございました。

地区委員委嘱状授与

村上哲二 R
2026-27 年度 2700 地区
ロータリー財団委員会委員長

本 日 の プ ロ グ ラ ム
【プログラム委員会】

「アジアの変化と、私の変化」

国際奉仕委員長【黒水泰徹 R】

2014 年、私は初めてタイを訪れました。海外経験もなく、英語も話せず、今のようにスマートフォンも当たり前ではない時代。ネットで情報を必死に調べ、飛行機の乗り方から、空港から市内への移動方法まで、何もかも手探りでした。それでも、今回カンボジアにカメラマンとして同行してくれた友人と二人で、人生初めての海外へ飛び立ちました。

空港のドアが開き、一歩外へ出た瞬間 ― そこは、灼熱のバンコクでした。4 月。タイにとっては真夏。そんなことも知らない、ただ勢いだけで飛び出した二人でした。

当時の為替レートは、1 バーツ 2.5 円。円の力は、まだまだ強かった時代です。安いホテルでも十分きれいで、タクシーも食事も、とにかく“安い”という印象でした。当時のバンコクは、観光客は少なかったですが多くの日本人がいました。日本語の看板、日本語のメニュー、日本語の呼び込み。「日本人はお金を持っている」 そんな空気を、どこかで感じていました。

私たちは右も左も分からないまま、若さと勢いだけでバンコクを歩き回っていました。今思えば、“自由”を感じていたのだと思います。日本では当たり前だったことが通用しない。言葉も文化も違う。でも、それが刺激的でした。

そして何より、当時の私たちは、日本人であることにどこか余裕がありました。円の強さを深く考えるこ

ともなく、ただ「海外は安いな」と感じていました。

空港を出て汗だくで街を歩き、とにかくお腹が空いていました。タイで初めて食べた一食目。屋台のパッタイでした。 値段は 15 バーツ。当時のレートで約 40 円。正直、「大丈夫か？」と思いました。安すぎる。衛生的にも少し不安。でも勇気を出して食べてみました。……うまい。驚くほど美味しかった。たった 40 円。でも、あの一皿は私にとって“世界が広がった瞬間”でした。

当時の私は、「海外は安い」「日本は豊かだ」そんな感覚を疑うことなく持っていました。その後も私は、何度もタイを訪れるようになりました。 そして、7〜8 年前。違和感を感じます。

為替は、1 バーツ 3.5 円。それまで私は「1 バーツ＝3 円」で感覚的に計算していました。ところが 3 円で計算できなくなっている自分に気づいたのです。たった 0.5 円。しかし、その“たった”が、じわじわと効いてきました。あの 15 バーツのパッタイはもうなく、30 バーツ、40 バーツと値段は上がっていきました。それでも、まだ日本よりはるかに安い。1 日数千円あれば十分に過ごせる。宿泊費も安い。ビールも 1 本 100 円ほど。「まだ安い。」そう思っていました。

しかし ― バンコクの街を歩くと、少しずつ景色が変わっていきました。日本人よりも、韓国人や中国人の観光客が目立つようになった。レストランのメニューも、英語と日本語に加えて、ハングルや中国語が大きく並ぶようになった。あれほど存在感のあった日本が、少しずつ“主役”ではなくなっている。そのとき私は、「タイが成長している」と思っていました。

「タイは安い国」という感覚が、少しずつ崩れていきました。そして訪れるたびに、かつて多く見かけた日本資本のデパートやスーパーが減っていきます。代わりに増えていったのは、中国資本の大型店舗。日本系百貨店の姿は薄れ、巨大商業施設が街の中心になっていく。

「日本人は強い」「日本はまだ大丈夫だ」そう信じていたい自分。しかし同時に、言葉にできない“静かな危機感”が、広がっていきました。そして現在。1 バーツは 5 円。かつて 2.5 円だった通貨が、今は 5 円。2 倍です。あの 15 バーツのパッタイは、今では 60 バーツ、70 バーツ。「安い国」という感覚は、もうありません。「タイは安い」というよりも、「日本と変わらない」。むしろ日本の方が安く感じる瞬間さえあります。物価は上がる。それは成長の証でもあります。

しかしその成長を感じながら、自分たちはどうだったのか。街を歩いても、かつて感じていた“日本人としての特別感”はありません。アジアの国の一人でしかなくなっていたのです。

そんな私に転機を与えてくれたのはたった一人のカンボジア人です。東南アジアの中でも、まだ発展の途中にある国カンボジア。タイの成長を見てきた私が、次に訪れたのがカンボジアでした。

タイでは「安い国が高くなっていく姿」を見ました。しかしカンボジアでは、まだ“機会そのものが足りない”現実に出会いました。物がないのではない。チャンスがない。働く意欲がないのではない。働く環境が整っていない。日本が強いか弱いかではなく、自分は何ができるのか。そのきっかけをくれたのがサビンさんでした。

チャンスを求めている、一人のカンボジア人。そして同時に、「自分に何かできることはないか」と考え始めていた私自身。その二人が出会いました。 正直に言えば、彼は商売のために私のところへ来たのかもしれません。でも、その出会いがなければ、私はカンボジアという国を本当の意味で知ることはなかったと思います。

ニュースや数字ではなく、一人の人間を通して、その国の現実を見ることになったのです。サビンさんを通して紹介されたのが、JAC のワ・コラ会長でした。初めてお会いしたのは、プノンペンのとある喫茶店。静かに、穏やかに話す方でした。

彼は日本の大学で学び、楽天で働き、その後カンボジアへ戻りました。今は自ら会社を経営し、Airbnb を活用して世界中の不動産オーナーの物件を管理するビジネスを行っています。つまり、成功している経営者です。しかし彼は、そこで終わりませんでした。

日本で学んだこと。日本から受けた支援。日本社会への感謝。そして日本への尊敬。その想いを、今度は自分の国の若者たちへ、“支援”という形で返しているのです。私はそこで、強く心を打たれました。

これは「助けてあげる」という話ではない。学び、感謝し、そして次の世代へつなぐ人の物語だと。これこそがロータリーなんだと。

ワ・コラ会長から紹介されたのが、プレアビヒアという地域でした。タイとの国境に近い、カンボジア北部。長年、国境紛争の影響を受けてきた地域です。紛争によって、土地や家を失った家庭もあります。住む場所を変えざるを得なかった人々。農地を手放した家族。過去の歴史が、今の生活に影響している現実がありました。

しかし、そこで私が見たのは“戦争の話”ではありません。そこにあったのは、働きたいけれど、働く手段がない現実。小さな子どもを抱えながら、収入を得る術が限られている家庭。支援物資は一時的に届く。でも生活は続きます。

そこで私たちが考えたのが、屋台セットの支援でした。鍋やコンロ、調理器具。衛生品。生活必需品。

「物」を渡すのではなく、“収入を生み出す手段”を渡す。今日だけ助かる支援ではなく、明日以降につながる支援です。

しかし、支援しているのは私達の方ですが、実はエネルギーをもらっているのも私でした。よく「どうやってモチベーションを保っているのですか」と聞かれます。私は特別に強い人間ではありません。 気持ちが乗らない日もある。忙しさに流されそうになる日もある。でも、ひとつ分かったことがあります。モチベーションは、“やる気”から生まれるのではない。“人”から生まれる“のだと。

サビンさんの姿。ワ・コラ会長の覚悟。プレアビヒアで出会った家族の表情。その一人一人が、私の心の中に残っています。そして、もうひとつ。新しいモチベーションを生み出すためには、“小さな成功”が必要だということです。

屋台セットを渡したその日。家族が支援を受け取った瞬間、そこにあったのは「物」ではありませんでした。小さな子どもを抱えたお母さんの表情が、ふっと和らいだのです。「これで、やってみよう」そんな未来への一歩が、そこに生まれたように感じました。

大きな成功ではありません。でも、“生活できるかもしれない”という小さな希望の灯りがともった瞬間でした。その表情を見たとき、私は思いました。

ああ、支援とは、物を渡すことではなく、未来の選択肢を増やすことなのだと。そしてその小さな希望が、私自身の次のモチベーションになっていくのです。日本が強いか弱いか。為替がいくらか。それも大切な現実です。でも最後に人を動かすのは、“誰と出会い、誰と未来を見たいと思えるか“だと。“完璧な支援を目指すのではなく、一歩でも前に進む支援”を続けたい。そう思っています。

今回お話ししたのは、あくまで“きっかけ”です。プレアビヒアの具体的な活動や、実際にどのような変化が生まれているのか。それは 5 月に改めて、しっかりとご報告させていただきます。

今日は、数字や成果よりも、私が出会った人たち、そして私自身の変化をお伝えしました。モチベーションは、特別な才能から生まれるものではありません。出会いと、小さな成功の積み重ね。その中から自然に育っていくものだと、私はカンボジアで学びました。

5月には、その“小さな一歩”がどのように続いているのかを、皆さまにお伝えできればと思います。

ニコニコ BOX

岩﨑徳浩Ｒ：父、俊徳の通夜・葬儀への御参列ありがとうございました。
平石正信Ｒ：黒水委員長、カンボジアお疲れ様でした。ありがとうございました。
緒方正憲Ｒ：黒水委員長、卓話ありがとうございました。教え子が全国高等学校選手権柔道 48K で出場します。
金澤　隆Ｒ：黒水Ｒありがとうございました。
原田和博Ｒ：長尾副委員長、プログラムありがとうございました。黒水委員長、卓話ありがとうございました。
藤原妃呂Ｒ：黒水Ｒ、カンボジア支援お疲れ様でした。
松井明男Ｒ：ニコニコします。
松山貞徳Ｒ：黒水委員長、貴重な卓話をありがとうございました。
村上哲二Ｒ：黒水委員長、カンボジア行けず、すみませんでした。
渡邉豊文Ｒ：黒水委員長ありがとうございました。

ニコニコ BOX
3 月 4 日の合計 19,000 円
累計 532,546 円

LOVE FM
ロータリークラブ presents
「ピース・オン！DAYTIME」
TUE 12:30-12:45